

人生は
決まり
文句で

コーラの実をもたらず者は、人生をもたらず

Onye wetara oji, wetara ndu

松本 尚之

(まつもと ひさし)

東北大学大学院専門研究員

コーラの実のもてなし

コーラの実はアフリカの熱帯雨林地域に植生するコーラノキの実で、わたしたちがよく知っているコーラ飲料の原料でもある。わたしがともに暮らしたナイジエリアのイボ人たちは、客を迎える際にコーラの実を供してもてなす。彼らの家を訪ねると、居間におおされたあと、家の主人がコーラの実を皿に載せてもってくる。実をその場にいる人たちの数に割って食べるのだが、その手順には念入りな決まりがある。

まずコーラの実を載せた皿が、その場にいる男たちのあいだを年齢の若い者から順に廻されていく。年長者を敬うイボ人たちにとつて、この過程は男たちが互いの年齢を確認する機会となっている。そしてみなあいだを廻ったコーラの実は、最終的に最年長者のもとへとたどり着く。最年長者はコーラの実の入った皿を掲げ、みなを代表してコーラの実に対し祈りを捧げる。その後コーラの実が人数分に割られ、一人一人が実の一片を手にとり、口にします。

「コーラの実をもたらず者は、人生をもたらず：」これは祈りの冒頭によく用いられる文句である。イボ人たちにとつてコーラの実は「友愛」や「歓待」を象徴する。コーラの実によるもてなしは家の主人と客が人生をわかち合うことを意味する重要な儀礼なのである。この儀礼は家で客を迎えるときだけでなく、集会や祭りなどの人が集まる機会にもおこなわれる。

だから供されたコーラの実のかけらを

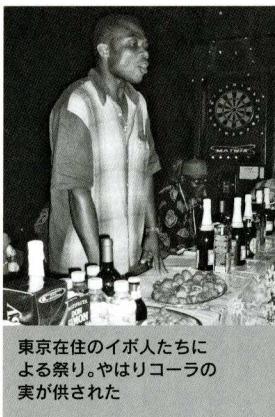
受けとらないことは、大きな問題へと発展する。あるとき、わたしの滞在していた村で一人の男性が亡くなった。彼には三人の兄弟がいたが、仲が悪いことで有名だった。兄弟たちが通夜に訪れた際、そのうちの一人が故人の遺族が供したコーラの実のかけらを受けとらなかつた。この出来事は村中に広まって、大きな話題となった。兄弟が故人の死の原因だという噂が広がり、村で緊急集会が開かれた。

贈り物やワイロとしてのコーラの実

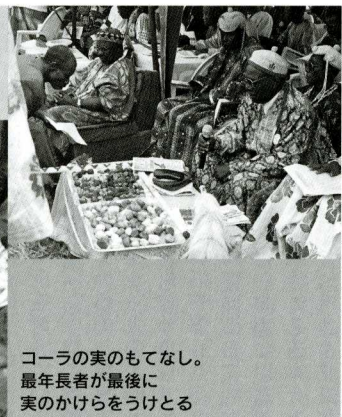
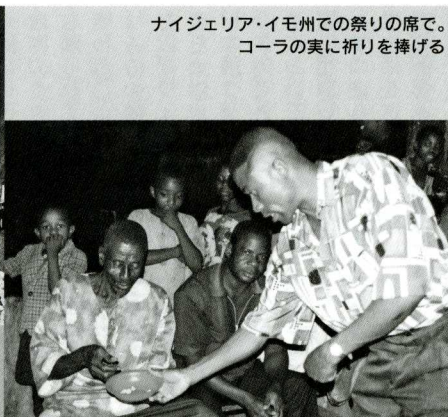
コーラの実は贈り物やワイロの隠喩としても用いられる。久しぶりに村を訪れ、あちこち歩いていると、出会った人びとが寄ってきてわたしを歓迎してくれる。なかには「やあ、久しぶりだな。俺のコーラの実はどこだい？」と声をかけてくる人もいる。土産はないのかと聞いているのだ。土産がなければ、飲み物の一杯でも奢ればいい。だが懐具合によっては、それができない場合もある。初めのころは、そんな場合に何と答えればよいか悩んだものだ。しかしコーラの実にまつわるイボ人たちの習慣を知っていれば、それほど悩むことはない。「コーラの実を供するのは家の主人か、それとも訪ねてきた客かい？それは、主人の権利だろう。ここではわたしは客人だ。さあ、わたしのコーラの実はどこだい？」

こういう返せば、なかにはにっこり笑

ナイジェリア・イモ州での祭りの席で。
コーラの実に祈りを捧げる



東京在住のイボ人たちによる祭り。やはりコーラの実が供された



コーラの実のもてなし。
最年長者が最後に
実のかけらをうけとる

つて逆に飲み物を奢ってくれる人たちもいる。